

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075800419		
法人名	サンコーケアライフ 株式会社		
事業所名	グループホーム けやき		
所在地	〒820-0206 福岡県嘉麻市鴨生94番地19	TEL	0948-42-7578
自己評価作成日	令和03年08月05日	評価結果確定日	令和03年11月06日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	TEL	093-582-0294
訪問調査日	令和03年08月30日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との交流を大切にしながらホームでの生活を個人の思いが維持できるようにご家族との信頼を築きながら、けやきに入居して良かったと思っただけのように日々支援しています。  
また家庭的な雰囲気を維持していきながら、生活の中でご自身の残存能力を活かしていき 認知症の予防を図っています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

嘉麻市の公共施設が集中する利便性の良い場所に17年前に開設した、定員18人のグループホームである。「入居者第一」を理念に掲げ、ホームで生活する利用者が安心して普通の暮らしを送れるように、家庭的な環境のなかで、利用者一人ひとりの個性や生活習慣を大切にした尊厳のある暮らしの支援に取り組んでいる。医療面では、希望されるそれぞれのかかりつけ医やホーム提携医、訪問看護師と連携して24時間安心の体制を整え、毎年のように看取りの支援に取り組んでいる。コロナ禍の中、面会や地域交流、外出、外食レクは控えているが、畑で収穫したトマトやピーマン、茄子、ゴーヤ等を使って、職員が愛情込めて手作りの美味しい料理の提供や、歌や制作、スイカ割り、周辺の散歩等、利用者の毎日が少しでも楽しいものになるように、管理者を中心にスキルの高い職員が力を合わせて頑張っている、「グループホーム けやき」である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「入居者第一」と基本理念とし、尊厳ある対応を心がけています。	「入居者第一」の基本理念の下、ホームが目指す介護理念「家庭的な環境の中で、尊厳のある暮らしの支援を利用者本位に行う」を掲げ、見やすい場所に掲示している。朝礼時に週3回は唱和を行い理念の共有に努め「このホームで良かった」「長生きしてよかった」と心から思ってもらえるホームを目指し、日々取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であり、現状では地域との交流は思うようにとれていません。	以前は、利用者と職員が町内の行事に参加したり、婦人会の方たちが盆踊りを踊りに来てくれるなど交流も盛んであった。また、地域の方やボランティア、家族参加でホーム行事を行ったり、小学生のホーム見学や中・高生の体験学習の受け入れを行っていたが、現在はコロナ禍の下、自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	嘉麻市で行われる勉強会や交流会には状況に応じて参加しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度行っており、様々な意見、情報の共有を行いサービスの向上に努めています。現状ではコロナ禍であり、書面開催となっています。	運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、ホームの運営や取り組み、ヒヤリハット、事故等を報告し、参加委員からは、質問や意見、要望、情報提供などを受けていたが、現在、新型コロナウイルス感染症対策の為、書面での報告を行っている。	現在は新型コロナウイルス感染症対策の為、書面で報告を行っているが、委員の承諾を得ること、感想や意見、情報などを返信してもらい、双方向的な書面会議となるような工夫が望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修会のお知らせにはできるだけ参加しケアの向上につながるよう新しい情報を教えて頂いている。	管理者は、行政担当窓口には、ホームの空き状況や事故等の報告、疑問点、困難事例について相談し、アドバイスを受け連携を図っている。地域包括支援センター主催の会議や研修会に参加し、情報交換を行い行政と協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月ごとに身体拘束廃止委員会による勉強会を行っています。業務中でも各自が身体拘束についての知識を活かし、実践につながる様に努力しています。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、2ヶ月毎(奇数月)に身体拘束廃止委員会による勉強会を実施し、禁止行為の具体的な事例を検証し、日頃の介護サービスの振り返りを行っている。特に、言葉遣いには気をつけ、日常業務の中でも気になる所は注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	尊厳ある対応とはどのようなものか施設全体でその在り方を考え虐待をしない、させない取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を理解し、成年後見制度について定期的に勉強会にて理解を深めている。	権利擁護の制度について、定期的に勉強会を実施して制度の内容の理解に努めている。制度に関する資料やパンフレットを用意し、必要時には利用者や家族に説明し、関係機関に相談しながら、制度を活用できるよう支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、説明、納得、理解されるよう確認している。不明な点はいつでも質問を受ける旨も伝えている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、また電話にご意見、ご要望を確認している。また内容も職員に伝達し、情報共有できるようにしている。 また、運営推進会議等で出された意見もできることは反映し運営している。	職員は、利用者と共に過ごす中で、利用者の意見や要望を聴き取るようにしている。現在は、コロナ禍で面会が中止となっている為、家族とのやり取りは主に電話で行っているが、こまめに報告や連絡を行う中で、家族の意見や要望を聴き取り、出された意見を検討し運営に反映させている。写真をたくさん載せた「けやき便り」を定期的に送付し、家族の安心に繋げている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニットごとの会議、2、3カ月ごとの合同惠会議を行い各自の意見や提案を取り入れている。実践しながら評価も行っている。	毎月のユニット毎の会議と2ヶ月毎の合同会議を開催し、職員の意見や要望、提案等について話し合う機会を設けている。会議では、カンファレンスの他に、業務について意見や提案が出され、管理者は、職員の意見に耳を傾け、出来るだけ反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やり甲斐のある楽しい職場になるように努力している。また、定期的に個人面談を行い、職員のメンタル的な面も把握し解決できるようにしている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては差別はしない。本人のやる気を大切に新人には一からの教育を行い研修会や勉強会の参加を呼びかけている。	職員の休憩室やロッカーを整備し、休憩時間や勤務体制、希望休に配慮し、リフレッシュしながら働ける職場環境に取り組んでいる。手芸や園芸、歌、料理、レクリエーション等、職員の特技や能力を活かして、楽しく働くことのできる職場づくりに取り組み、外部研修の受講や資格取得を奨励し、介護の知識と技術の向上に努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習に参加するようにしている。今年はコロナの影響で研修にも参加が難しく、施設内での勉強会を検討している。	職員会議や勉強会で、利用者の人権を守る介護のあり方について話し合い、利用者の個性や生活習慣に配慮し、利用者一人ひとりに合わせた介護サービスの提供に取り組んでいる。また、家庭的な環境と良好な人間関係を築き、尊厳のある穏やかな暮らしの支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が何を学びたいのかを確認し、内容に応じた研修の参加を勧めている。また、内部研修にも取り入れている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会時に同業者との意見を聞き、馴染みもありお互い切磋琢磨している。グループホーム協議会を通じ、定期的に連絡を取り合い意見交換をしている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日常生活で発した何気ない言葉を拾い上げ、その方の思いを理解できるようにコミュニケーションを大切に笑顔がでる対応を心がけている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク、アセスメント時にしっかりと要望を受け止め、ニーズを見極め信頼関係を築く様にしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント時の情報を把握医、多職種とも連携をとり必要に応じたサービスが行われる様努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の持たれている能力を見極め、人生の先輩として教えて頂くこともある。共に生活をしている者同士として支えあっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お互いの協力関係がないと介護はできない事を理解して頂くとともに、ご本人、ご家族の思いを大切にしながら望む生活が送れるように関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人、地域の方々なそ交流を続けられるように声掛けし、今までの生活の継続ができるように支援している。	以前は、利用者の家族や友人、知人の面会も多く、馴染みの場所へ買い物に出かけたり、美容院に行く等、利用者がこれまでに築いてきた人間関係や地域社会との関わりが途切れないように努めてきたが、現在はコロナ禍の為、難しくなっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の体操やレクの時間には参加して頂き、楽しい時間を共有し仲良く過ごすことができるように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も気軽に立ち寄って頂き、相談を受けたりして出来ることは支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いを大切に無理強いはいしない。ただし、どうして良いか分からないときなどの表情、行動を把握しながら支援している。また、その都度、職員会で情報共有しどのように支援するべきか考えている。	職員は、日常の関わりの中から、利用者の希望や意向を聴き取り、家族と相談しながら実現に向けて取り組んでいる。また、意思を伝えることが困難な利用者には、職員が寄り添い、話しかけ、利用者の表情や仕草から思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族の思いと本音の部分が食い違いがある時もある。ご本人の生活歴も大切に探し得た情報を職員間で共有しご本人にあった対応を心がけている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活歴に準ずるところもある。心身の状態を見極め体調管理、精神状況を細かく分析してその場面にあった対応をしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時、または担当者会議の時に支援内容と経過について話し合い、評価している。	現在はコロナ禍の為、主に電話で家族の意見や要望を聞き取り、ミーティング、又は担当者会議で利用者の現状と支援内容、経過について話し合い、その結果を踏まえて利用者本位の介護計画を短期3ヶ月長期6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医、看護師と話し合い、介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録などで振り返りながら職員間で情報を共有し計画を見直している。申し送りなどを活用し細かいことも職員間で情報共有している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人の情報を共有できるようにしている。生活上での言動や日頃の様子、ご家族との会話の中での内容などをニーズに反映している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の集まりや行事への参加を通じ交流を図っている。昨年は毎年恒例だった餅つきは施設内で行った。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご本人やご家族の希望を伺い、馴染みのあるかかりつけ医の受診を支援しているが、ご本人の重度化などにより受診の負担も考慮し往診へ切り替えている。また、重度化、看取り対応の方に関しての対応では医療、ご家族、施設の連携が取れるように環境を整えている。	入居前に利用者や家族と話し合い、かかりつけ医の受診を支援しているが、利用者の重度化が進むと、利用者や家族が承諾の上で、往診できる協力医療機関に変更し、24時間安心の体制を整えている。また、主治医と訪問看護師(毎週訪問)、介護職員は、常に連携を図り、利用者が安心して適切な医療を受けられるよう支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護との24時間体制で何かあればすぐに相談、報告できる体制は整っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状態は定期的に医療機関へ連絡し状態の把握をしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化に伴い、ご家族からの要望を聞き取り主治医の意見を聞きながら今後の介護の方針を確認している。看取りケアも毎年行っており、施設全体が看取りケアを身近なものに感じている。また、看取りケア後も振り返りを行い、反省点、良かったことを職員で意見を出し、次の看取りケアに活かすことができている。	重度化や終末期に向けた方針について、契約時に説明を行っている。利用者の重度化に伴い、改めて家族の希望を聴き取り、主治医とも相談して方針を決定し、関係者で共有して、希望に応じて看取りの支援に取り組んでいる。毎年のように看取りを経験し、その都度振り返りを行い、次の看取りケアに活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作衛し連絡体制を決めている。定期的に勉強会や訓練を行っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、消防訓練を行っている。災害はいつ起こるか分からないので、職員全体がきちんと対応できるようにしている。	毎月、自主防災訓練を実施して、通報や初期消火、避難誘導を迅速に行い、利用者が安全に避難場所に避難できる体制を整えている。訓練を毎月繰り返し行うことで、職員一人ひとりが避難誘導を体で覚え、いざという時に自然に対応できるように取り組んでいる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を大切にし優しい対応や声掛けでプライドや羞恥心に配慮している。個人情報の記録の保管や職員の守秘義務については職員に説明し周知している。	利用者一人ひとりの人格を尊重する介護について職員間で話し合い、言葉遣いや対応に注意し、利用者のプライドや羞恥心に配慮して、利用者が安心して過ごすことのできるホームを目指している。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が常に説明し、周知徹底を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活背景を理解し押し付けではなく意欲が出せる様声掛けを行い、意思の確認を行っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意欲の低下がみられる中、体を動かすことは積極的に行いその他はご本人のお好きな様に過ごして頂くようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を大切に一日のメリハリでおしゃれを楽しんでいただいている。毎年、七夕祭りには浴衣を着て頂きお化粧や髪型におしゃれができるように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の残存能力を引き出しながら食事の盛り付けや後片付けなどをして頂き、季節ごとに梅干しやらっきょう漬けを作ったり楽しんでる。また、毎月調理レクを行い調理を楽しんで頂いている。	畑で収穫した新鮮な野菜を使って職員が作る、家庭的で美味しい料理を提供している。利用者の能力を引き出しながら、下拵えや味付け、盛り付け、後片付け等を一緒に行っている。また、季節毎に梅干しやラッキョウ漬け等を作ったり、土用の丑の日にはうな丼、皆で作るお好み焼きなど、食を楽しめるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の症状に応じた食事を提供するように心がけている。また、嚥下状態に応じた食事形態の食事を提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを定着している。ご自身でできない方は訪問歯科を利用して口腔内の清潔保持に努め、病気の予防に務めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンに応じた支援をしている。トイレでの自立した排泄ができ、常に清潔が維持できるように努めている。	利用者が重度化してもトイレでの排泄を基本とし、職員は利用者の排泄パターンや生活習慣を把握して、タイミング良く声掛けや誘導を行い、失敗の少ない排泄支援に取り組んでいる。また、下肢筋力を鍛える生活リハビリを取り入れ、利用者の立位が保てるように努力している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便があるよう心掛けている。運動不足もあり緩下剤に頼る方もおられるが、水分補給を積極的に行うように努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の対応であるが、状況に応じて回数を増やしたりなど行っている。	利用者の希望に合わせて入浴が出来るように支援し、週3回を基本としているが毎日入ることも可能である。仲の良い利用者同士と一緒に入ることもあり、入浴が楽しいものになるよう支援している。重度化の利用者には、状況に応じてシャワー浴や清拭で対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れた時や休息の時間は個々のペースで過ごせる様している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の処方箋を綴じ、全体が把握できるように保管している。また、内服薬が変わったことによる体調の変化などは記録に残し、主治医へ報告している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみ事の支援をして気分転換をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時は周辺を散歩したりしている。以前は買い物などにも行っていたが、コロナ禍であり実践できていない。	以前は、地域の祭りや活動に利用者と職員と一緒に出かけたり、家族の協力を得て外食や買い物に出かける等、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいたが、現在はコロナ禍の下、自粛している。気候の良い日には、広い敷地を散歩したり、畑の手入れ、収穫など、工夫しながら利用者の気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時などはご自分でお金を使える様に支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の自由にして頂いている。声が聞きたいときはいつでも対応し、ご家族にも事前に相談しご納得頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備している。季節ごとの壁画や書道をして頂き掲示している。音や照明、温度や湿度、換気に注意している。	室内は清掃が行き届き、音や照明、温度や湿度、換気に注意し、清潔で明るい共用空間である。玄関や壁に利用者と職員による季節毎の作品が掲示され、生花を飾り、季節感あふれる雰囲気である。リビングルームに利用者が集まり、仲の良い利用者同士が談笑したり、職員とゲームや作品作りを楽しんでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	決められたあ所が安心のようでもあるが時には各自の居室などでくつろいでおられる。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の必需品や好みにものを生かし、それぞれの好みのお部屋になっている。	入居前に利用者や家族と話し合い、長年使い慣れた箆笥やベッド等の家具や仏壇、家族の写真、生活必需品を家族の協力で持ち込んでもらい、その人らしい環境の中で、利用者が安心して過ごすことのできる支援に取り組んでいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	福祉用具も利用し、安全に自立した生活ができるように支援している。		